令和7年度

標　準　構　造　図

岡崎市上下水道局上下水道部

標準構造図・目次

図面番号	図　面　名　称	公社図面番号(参考)
001	土工・硬質塩化ビニル管	108・202
002	土工・鉄筋コンクリート管	101・202
101	0号組立マンホール標準図	308
102	1号組立マンホール標準図	309
103	2号組立マンホール標準図	310
104	馬蹄・楕円形組立マンホール標準図	312
105-1	下水道用硬質塩化ビニル製小型マンホール	318
105-2	下水道用硬質塩化ビニル製小型マンホール(落差点)	321
107-1	副管工詳細図	
111	1号組立マンホール標準図(レジンコンクリート製)	
112	2号組立マンホール標準図(レジンコンクリート製)	
113	3号組立マンホール標準図(レジンコンクリート製)	
201-1	φ200　公共桝設置標準図　取付管径:分流汚水区域φ100	
201-2	φ200　公共桝設置標準図(取付管立ち上がり)　取付管径:分流汚水区域φ100	
201-3	φ200　公共桝設置標準図　取付管径:合流区域φ150(100)	
213	雨水取付管標準図(取付管φ150)	205
301	アルミ(軽量鋼)矢板土留設置工標準図	
401	舗装復旧工詳細図・国県道	502・503
401-1	舗装復旧工詳細図・国県道(乗入部)	
402	舗装復旧工詳細図・市道	

土工・硬質塩化ビニル管

寸法数量表　　(単位：mm)

管径 (D)	管外径 (D_1)	基礎高 (H)	素掘(1.5m以下：直掘) 掘削幅 W				アルミ(軽量鋼)矢板 掘削幅 W			
			人力	BH0.13	BH0.28	BH0.45	人力	BH0.13	BH0.28	BH0.45
150	165	370	550	550	600	750	800	900	1050	1200
200	216	420	600	600	600	750	850	900	1050	1200
250	267	470	650	650	650	750	900	900	1050	1200
300	318	520	700	700	700	750	950	950	1050	1200
350	370	570	750	750	750	750	1050	1050	1050	1200
400	420	620	800	800	800	800	1100	1100	1100	1200
450	470	670	850	850	850	850	1150	1150	1150	1200

砂量＝$W \times H - \pi/4 \times D_1^2$

注：上記標準図は砂基礎（砂充填角度90°、180°、360°）に砂埋戻し（管上10ｃｍ）を含む。

※：改良土、再生砂等、砂と同等品を含み、使用にあたっては、リサイクルの観点に留意する。

図　　名	土工・硬質塩化ﾋﾞﾆﾙ管		
分　　類	D	図　番	001
改訂年月日	平成３０年４月１日		

土工・鉄筋コンクリート管

砂充填角90度
（支承角60度）

砂充填角180度
（支承角90度）

砂充填角360度
（支承角120度）

寸法数量表

呼び径 D	管厚 t	h	管外径 D1	砂基礎高 H			素掘(1.5m以下：直掘) 掘削幅 W				アルミ(軽量鋼)矢板 掘削幅 W			
				90°	180°	360°	人力	BH0.13	BH0.28	BH0.45	人力	BH0.13	BH0.28	BH0.45
150	26	100	202	130	210	310	600	600	600	750	850	900	1,050	1,200
200	27	100	254	140	230	360	650	650	650	750	900	900	1,050	1,200
250	28	100	306	150	260	410	700	700	700	750	950	950	1,050	1,200
300	30	100	360	160	280	460	750	750	750	750	1,000	1,000	1,050	1,200
350	32	100	414	170	310	520	800	800	800	800	1,050	1,050	1,050	1,200
400	35	150	470	220	390	620	850	850	850	850	1,150	1,150	1,150	1,200
450	38	150	526	230	420	680	900	900	900	900	1,200	1,200	1,200	1,200
500	42	150	584	240	450	740	—	—	—	—	1,250	1,250	1,250	1,250
600	50	150	700	260	500	850	—	—	—	—	1,350	1,350	1,350	1,350
700	58	200	816	320	610	1,020	—	—	—	—	1,450	1,450	1,450	1,450
800	66	200	932	340	670	1,140	—	—	—	—	1,600	1,600	1,600	1,600
900	75	200	1,050	360	730	1,250	—	—	—	—	1,700	1,700	1,700	1,700
1,000	82	200	1,164	380	790	1,370	—	—	—	—	1,800	1,800	1,800	1,800

砂量＝W×H-[{$D1^2$/4×π×（充填角θ/360）－ D1/2×cos（θ/2）×D1×sin（θ/2）×1/2}]

※：改良土、再生砂等、砂と同等品を含み、使用にあたっては、リサイクルの観点に留意する。

図　名	土工・鉄筋コンクリート管		
分　類	D	図　番	002
改訂年月日	平成２２年４月１日		

0号組立マンホール標準図

横断面図

平面図

縦断面図

底部工材料表　　1箇所当り

種別	形状・寸法	計算式	単位	数量
砕石基礎	RC－40	0.95×0.95	m^2	0.90
コンクリート	18－8－25　VUφ150		m^3	0.09
	18－8－25　VUφ200		m^3	0.09
モルタル上塗り工	t=2cm　VUφ150		m^2	0.72
			m^3	0.01
	t=2cm　VUφ200		m^2	0.72
			m^3	0.02

※1 その他の管径は別途考慮する。

注：壁厚tは「JSWAS･A-11」を参照のこと。

図名	0号組立マンホール標準図		
分類	M	図番	101
改訂年月日	平成　30　年　4　月　1　日		

１号組立マンホール標準図

横断面図

平面図

縦断面図

底部工材料表　　１箇所当り

種　別	形状・寸法	計　算　式	単　位	数　量
砕石基礎	RC－40	1.10×1.10	m^2	1.21
コンクリート	18－8－25　VUφ150		m^3	0.13
	18－8－25　VUφ200		m^3	0.14
モルタル上塗り工	t=2cm　VUφ150		m^2	0.97
			m^3	0.02
	t=2cm　VUφ200		m^2	1.06
			m^3	0.02

※1 その他の管径は別途考慮する。

注：壁厚tは「JSWAS･A-11」を参照のこと。

図　名	１号組立マンホール標準図		
分　類	M	図　番	102
改訂年月日	平成　30　年　4　月　1　日		

2号組立マンホール標準図

横断面図

平面図

縦断面図

底部工材料表　　1箇所当り

種別	形状・寸法	計算式	単位	数量
砕石基礎	RC－40	1.45×1.45	m^2	2.10
コンクリート	18－8－25　VUφ700		m^3	0.35
	18－8－25　VUφ800		m^3	0.34
モルタル上塗り工	t=2cm　VUφ700		m^2	2.98
			m^3	0.06
	t=2cm　VUφ800		m^2	3.24
			m^3	0.06

※1 その他の管径は別途考慮する。

注：壁厚t1･t2は「JSWAS･A-11」を参照のこと。

図名	2号組立マンホール標準図		
分類	M	図番	103
改訂年月日	平成　30　年　4　月　1　日		

馬蹄・楕円形組立マンホール標準図

横断面図

平面図

馬蹄形

楕円形

縦断面図

底部工材料表（楕円人孔）　　1箇所当り

種別	形状・寸法	計算式	単位	数量
砕石基礎	RC－40	0.80×1.10	m^2	0.88
コンクリート	18－8－25 VUφ150		m^3	0.09
	18－8－25 VUφ200		m^3	0.09
モルタル上塗り工	t=2cm　VUφ150		m^2	0.79
			m^3	0.02
	t=2cm　VUφ200		m^2	0.89
			m^3	0.02

※1 その他の管径は別途考慮する。

底部工材料表（馬蹄人孔）　　1箇所当り

種別	形状・寸法	計算式	単位	数量
砕石基礎	RC－40	0.80×1.10	m^2	0.88
コンクリート	18－8－25 VUφ150		m^3	0.10
	18－8－25 VUφ200		m^3	0.10
モルタル上塗り工	t=2cm　VUφ150		m^2	0.83
			m^3	0.02
	t=2cm　VUφ200		m^2	0.93
			m^3	0.02

※1 その他の管径は別途考慮する。

（参考図）

図名	馬蹄・楕円形組立マンホール標準図		
分類	M	図番	104
改訂年月日	平成 30 年 4 月 1 日		

下水道用硬質塩化ビニル製小型マンホール

下水道用硬質塩化ビニル製小型マンホール
JSWAS K−9−2008
JSWAS G−3−2005

表−1　インバート部の種類

設置箇所	種類	略号	マンホール径	管径
起　点	90度曲り　ほか	90L右,90L左 ほか	300	150,200,250
中間点	ｽﾄﾚｰﾄ	ＳＴ	300	150,200,250

表−2　立上り部の種類

種　類	略号	呼び径	備考
差し口形立上り部	ＭＶＵ	300	ゴム輪受口形インバート部用
ゴム輪受口形立上り部	ＭＶＲ	300	差し口形インバート部用

設　置　例

小型マンホール設置例を次図に示す。

ストレートインバート部の設置例

図−1　立上り接合部ゴム輪受口寸法（共通）

図−2　起点　設置例（略号　90L右,90L左）

※　異形継手及び自在受口（15°）について
　同等の性能を有する構造のもの(自在受口異径継手など)を使用しても良い。
※　本管径が200mmかつ取付管径が100mmの場合は
　偏心ソケットなどを追加し、取付管を接続すること。

鋳装及び台座基礎部断面

※：防護ふた設置は砕石で微調整がしにくい場合は、空練りモルタルを薄く敷均して行う。
※：軟弱な地盤では、底面の一部を砕石で置き換え、支持力を増してから砂基礎（10cm）を設ける。
※：起点に使用するインバートの種類は取付状況に応じて適宜選定する。

図−3　ストレート（略号 ST）

※　鋳鉄蓋について
　鋳鉄蓋の絵柄については指定なし。
　ただし、公共桝用（ミカワクロマツ）の蓋は使用しない。

マンホール径	防護蓋（組）	台　座（個）
300	1.0	1.0

図　名	下水道用硬質塩化ビニル製小型マンホール		
分　類	M	図　番	105-1
改訂年月日	令和　2　年　4　月　1　日		

下水道用硬質塩化ビニル製小型マンホール(落差点)

下水道用硬質塩化ビニル製小型マンホール
　　ＪＳＷＡＳ Ｋ－９－２００８
　　ＪＳＷＡＳ Ｇ－３－２００５

表－１　インバート部の種類

設置箇所	種類	略号	マンホール径	管径
落差点	起点型ドロップ	ＫＤＲ	300	150,200,250
勾配変化点	全種類	－	300	150,200,250

表－２　立上り部の種類

種　類	略号	呼び径	備考
ゴム輪受口形立上り部	ＭＶＲ	300	差し口形インバート部用

設　置　例

小型マンホール設置例を次図に示す。

起点ドロップ型インバート部の設置例

マンホール径	防護蓋（組）	台　座（個）
300	1.0	1.0

鋳装及び台座基礎部断面

※：防護ふた設置は砕石で微調整がしにくい場合は、空練りモルタルを薄く敷均して行う。
※：軟弱な地盤では、底面の一部を砕石で置き換え、支持力を増してから砂基礎（10cm）を設ける。

施工上の注意点

※：落差点において起点型（ＫＴ）及びドロップ型（ＤＲ）は使用しないこと

※：くらを切断加工しないこと

※：立上り接合部にＫＤＲＳを取り付けないこと

※：１箇所のマンホールに取付可能なＫＤＲＳは基本的に２個までとし、
　　くら同士が乗り上げたりしないよう取付ける

図　名	下水道用硬質塩化ビニル製小型マンホール(落差点)		
分　類	Ｍ	図　番	105-2
改訂年月日	令和　３　年　10 月　１　日		

内副管タイプ

※　プレーンエンド直管は直壁及びく体ブロックになるべく近づけること。

※　副管用継手は省スペース型のものとする。

※　内副管の設置下に本管流入がない場合は90°曲管をインバートまで設置させる。

（単位：mm）

本管径	副管径
150	100
200	150
250	200

図　名	副管工詳細図		
分　類	M	図番	107-1
改訂年月日	令和　7　年　4 月 1 日		

1号組立マンホール標準図（レジンコンクリート製）

横断面図

平面図

縦断面図

底部工材料表　　1箇所当り

種別	形状・寸法	計算式	単位	数量
砕石基礎	RC－40	1.06×1.06	m^2	1.12
コンクリート	18－8－25 VUφ150		m^3	0.13
	18－8－25 VUφ200		m^3	0.14
ポリマーセメント上塗り工	t=2cm VUφ150		m^2	0.97
			m^3	0.02
	t=2cm VUφ200		m^2	1.06
			m^3	0.02

※1 その他の管径は別途考慮する。

図名	1号組立マンホール標準図（レジンコンクリート製）		
分類	M	図番	111
改訂年月日	平成 30 年 4 月 1 日		

2号組立マンホール標準図（レジンコンクリート製）

横断面図

平面図

縦断面図

底部工材料表　　1箇所当り

種別	形状・寸法	計算式	単位	数量
砕石基礎	RC－40	1.20×1.20	m^2	1.44
コンクリート	18－8－25 VUφ700		m^3	0.35
	18－8－25 VUφ800		m^3	0.34
ポリマーセメント上塗り工	t=2cm VUφ700		m^2	2.98
			m^3	0.06
	t=2cm VUφ800		m^2	3.24
			m^3	0.06

※1 その他の管径は別途考慮する。

図名	2号組立マンホール標準図（レジンコンクリート製）		
分類	M	図番	111
改訂年月日	平成 30 年 4 月 1 日		

3号組立マンホール標準図（レジンコンクリート製）

横断面図

平面図

縦断面図

底部工材料表　　1箇所当り

種別	形状・寸法	計算式	単位	数量
砕石基礎	RC－40	1.66×1.66	m^2	2.76
コンクリート	18－8－25 VUφ1000		m^3	0.58
	18－8－25 VUφ1100		m^3	0.54
ポリマーセメント上塗り工	t=2cm VUφ1000		m^2	5.05
			m^3	0.10
	t=2cm VUφ1100		m^2	5.37
			m^3	0.11

※1 その他の管径は別途考慮する。

図名	3号組立マンホール標準図（レジンコンクリート製）		
分類	M	図番	111
改訂年月日	平成 30 年 4 月 1 日		

【分流汚水区域】

A型

B型

取付管標準断面
(本管土被り≦1.5m)

C型

φ200公共桝蓋（岡崎市型）　φ300公共桝蓋（岡崎市型）

硬質塩ビ製蓋（t=2）

※必須事項
・蓋中央の市章
・「おすい」文字表記

鋳鉄製防護ﾊｯﾄ蓋（t=14）

※必須事項
・蓋中央の市章
・「おすい」文字表記

※注意事項
・公共桝深Hは宅内状況に応じた深さを選定すること。
・既設側溝等の下に取付管を布設する場合は、たぬき堀りを行わず、さや管を設置すること。
・さや管と取付管との隙間には砂等を詰めること。
・県道でのさや管延長は側溝両端から250mmの余裕長を持たせる。
・耐震性を持たせるため、支管口及び公共桝の接続はゴム輪受口自在曲管を使用し、支管口接続部はゴム輪受口90°支管に自在曲管を接続すること。
・可とう性支管口を使用する場合は、取付管口径を確保できる部材のみ使用すること。
・直管部が4mを超える場合は、4mを超える毎にゴム輪接合を1箇所設けること。
・取付管の良好な維持管理のため、曲管は45°以下の自在曲管又は60°曲管を使用すること。
・自在曲管は5°以上鋭角側への曲げて使用とし、曲げ無し及び逆折れは排水の滞留が生じるため不可とする。
・自在曲管の振れ角に余裕を持つこと。
・B型、C型の公共桝接続部は75°以下の自在曲管を使用すること。

図　名	φ200 公共桝設置標準図 取付管径：分流汚水区域Φ100		
分　類	K	図 番	201-1
改訂年月日	令和　7　年　4 月 1 日		

【分流汚水区域】

（取付管を立ち上げる場合）

φ200公共桝蓋（岡崎市型）

※必須事項
・蓋中央の市章
・「おすい」文字表記

φ300公共桝蓋（岡崎市型）

※必須事項
・蓋中央の市章
・「おすい」文字表記

取付管標準図（矢板施工）（本管土被り＞1.5m）

※注意事項
・公共桝深Hは宅内状況に応じた深さを選定すること。
・既設側溝等の下に取付管を布設する場合は、たぬき堀りを行わず、さや管を設置すること。
・さや管と取付管との隙間には砂等を詰めること。
・県道でのさや管延長は側溝両端から250mmの余裕長を持たせる。
・耐震性を持たせるため、支管口及び公共桝の接続はゴム輪受口自在曲管を使用し、支管口接続部はゴム輪受口90°支管に自在曲管を接続すること。
・可とう性支管口を使用する場合は、取付管口径を確保できる部材のみ使用すること。
・直管部が4mを超える場合は、4mを超える毎にゴム輪接合を1箇所設けること。
・取付管の良好な維持管理のため、曲管は45°以下の自在曲管又は60°曲管を使用すること。
・自在曲管は5°以上鋭角側への曲げて使用とし、曲げ無し及び逆折れは排水の滞留が生じるため不可とする。
・自在曲管の振れ角に余裕を持つこと。
・B型、C型の公共桝接続部は75°以下の自在曲管を使用すること。

図　名	φ200 公共桝設置標準図（取付管立ち上がり） 取付管径：分流汚水区域Φ100		
分　類	K	図 番	201-2
改訂年月日	令和　7　年　4 月 1 日		

【合流区域】

取付管標準断面
(本管土被り≦1.5m)

φ200公共桝逆流抑止ます

【※必須事項】
・弁体について
通常時：開口構造
マス内水位上昇：閉塞構造

φ200-100-150

(φ200-100-100)

(取付管を立ち上げる場合)

取付管標準図（矢板施工）
(本管土被り＞1.5m)

φ200公共桝蓋（岡崎市型）

【※必須事項】
・蓋中央の市章　・圧力解放蓋
・ロック機構　・「おすい」文字表記

※注意事項
・公共桝深Hは宅内状況に応じた深さを選定すること。
・既設側溝等の下に取付管を布設する場合は、たぬき堀りを行わず、さや管を設置すること。
・さや管と取付管との隙間には砂等を詰めること。
・県道でのさや管延長は側溝両端から250mmの余裕長を持たせる。
・耐震性を持たせるため、支管口及び公共桝の接続はゴム輪受口自在曲管を使用し、支管口接続部はゴム輪受口90° 支管に自在曲管を接続すること。
・可とう性支管口を使用する場合は、取付管口径を確保できる部材のみ使用すること。
・直管部が4mを超える場合は、4mを超える毎にゴム輪接合を1箇所設けること。
・取付管の良好な維持管理のため、曲管は45° 以下の自在曲管又は60° 曲管を使用すること。
・自在曲管は5° 以上鋭角側への曲げて使用とし、曲げ無し及び逆折れは排水の滞留が生じるため不可とする。
・自在曲管の振れ角に余裕を持つこと。
・B型、C型の公共桝接続部は75° 以下の自在曲管を使用すること。

(φ150：合流区域内合流管渠
φ100：合流区域内汚水管渠)

図　名	φ200 公共桝設置標準図 取付管径：合流区域Φ150（100）		
分　類	K	図 番	201-3
改訂年月日	令和　7　年　4 月 1 日		

取付管標準断面
（本管土被り≦1.5m）

※注意事項

・既設側溝等の下に取付管を布設する場合は、たぬき堀りを行わず、さや管を設置すること。
・さや管と取付管との隙間には砂等を詰めること。
・県道でのさや管延長は側溝両端から250㎜の余裕長を持たせる。
・耐震性を持たせるため、支管口及び公共桝の接続はゴム輪受口自在曲管を使用し、支管口接続部はゴム輪受口90°支管に自在曲管を接続すること。
・可とう性支管口を使用する場合は、取付管口径を確保できる部材のみ使用すること。
・直管部が4mを超える場合は、4mを超える毎にゴム輪接合を1箇所設けること。
・取付管の良好な維持管理のため、曲管は60°以下の自在曲管又曲管を使用すること。
・自在曲管は5°以上鋭角側への曲げて使用とし、曲げ無し及び逆折れは排水の滞留が生じるため不可とする。
・自在曲管の振れ角に余裕を持つこと。
・コンクリート管への取付についてはヒューム管用2液性接合材（手塗りタイプ）を使用し。十分に圧着した状態で保持すること。

補強コンクリート

図　名	雨水取付管標準図（取付管φ150）		
分　類		図 番	213
改訂年月日	令和　7　年　4 月 1 日		

アルミ(軽量鋼)矢板土留設置工標準図

断 面 図

3.50m<H≦3.80m

2.00m<H≦3.50m

H≦2.00m

軽量鋼矢板・アルミ矢板設置基準

掘削深	支保工段数	腹起し	切梁
2.00m以下	1段支保	断面係数 120cm³以上	水圧式又はネジ式
2.00mより大きく 3.50m以下	2段支保		
3.50より大きく 3.80m以下	3段支保		

軽量金属支保工材料表　（100m、1段当り）

腹起し長さ4m	腹起し材	50.0本
	切梁材	50.0本

平 面 図

軽量鋼矢板標準図(参考)

規格性能（軽量鋼矢板）

矢板1枚につき	壁幅1mにつき
12.8 kg/m	38.4 kg/m²

アルミ矢板標準図(参考)

規格性能（アルミ矢板）

矢板1枚につき	壁幅1mにつき
5.63 kg/m	16.9 kg/m²

(軽量金属支保)

図　名	アルミ(軽量鋼)矢板土留設置工標準図		
分　類	A	図　番	301
改訂年月日	平成22年4月1日		

国道及び県道舗装復旧工

アスファルト舗装（ 車道 ）

L 交 通

A 交 通

B 交 通

C 交 通

D 交 通

コンクリート舗装（ 車道 ）

L 交 通

A 交 通

B 交 通

歩 道 部

アスファルト舗装

コンクリート舗装

国道及び県道舗装仮復旧工

アスファルト舗装L,A交通

アスファルト舗装BCD及びコンクリート舗装

凡 例

- 密粒ＡＳ
- 粗粒ＡＳ
- 瀝青安定処理
- クラッシャーラン（ＲＣ－40又はＣ－40）
粒度調整砕石（Ｍ－25, 40）
- コンクリート版
- 粒度調整砕石（Ｍ－25）

○ タックコート

× プライムコート

△ 鉄鋼

… ２層仕上げ（土破り1.2mの場合）

※１ 影響部の幅は３０cm以上とする。

※２ 車道の舗装復旧幅は１車線とする。

※３ 歩道の舗装復旧幅は全面とする。

※４ その他状況に応じ道路管理者と立会を行い舗装復旧幅を決定する。

図 名	舗装復旧工詳細図・国県道		
分 類	H	図 番	401
改訂年月日	平成 30 年 4 月 1 日		

	軽車両用（Ａ型）　歩道乗入部	中車両用（Ｂ型）　歩道乗入部	重車両用（Ｃ型）　歩道乗入部
アスファルト舗装			
インターロッキング舗装			
コンクリート舗装			

（凡例）

土被り別舗装構成の表示方法

かっこなし：土被り1.2m（1.2m以上）

［　］：土被り0.8m（0.8mを超え1.2m未満）

- ：密粒ＡＳ
- ：粗粒ＡＳ
- ：瀝青安定処理
- ：粒度調整砕石（M-25）
- ：クラッシャラン（ＲＣ-40・Ｃ－40）
- ：コンクリート版
- ：インターロッキングブロック
- ○：タックコート
- ×：プライムコート
- ：2層仕上げ

歩　道

図　名	舗装復旧工詳細図・国県道(乗入部)		
分　類	H	図　番	401-1
改訂年月日	平成　30　年　4　月　1　日		

市道舗装復旧図

凡　例

○　タックコート

×　プライムコート

図　名	舗装復旧工詳細図・市道		
分　類	H	図　番	402
改訂年月日	平成　22　年　4 月　1 日		

曲 管 標 準 図

S=1:10

曲管一般図（リブ管）

曲管一般図（VU）

変換継手（φ200）

VU受口−リブ差し口

リブ受口−VU差し口

VU曲管寸法表（φ200）

θ	Z1	Z2	l	R	b
5° 5/8	306	126	130	600	13
11° 1/4	336	156	130	600	13
15°	356	176	130	600	13

※R=600は、θ=15°未満とする。

土工標準断面図

※下水道用識別マーカーピンは、管路の屈曲部に垂直に設置する。
※屈曲箇所には、下水道用識別マーカーピンの笠部分をＧＬから60cmの位置に設置する。
ただし、土被りが50cm以上90cm以下の場合は管頂部から30cm、土被りが50cm未満の場合は、管の直上に設置する。
※下水道用識別マーカーピンは、埋設シートＬ＝0.5m以上と共に設置する。

リブ曲管寸法表（φ200）

θ	Z	Z1	Z2	l	R
22° 1/2	2160	1045	1140	120	5000

※θ=45°の場合は、θ=22° 1/2の製品2個を連続使用する。

※舗装部を掘削する場合は、舗装構成に準じて復旧する。

図　名	曲管標準図		
分　類		図　番	010
改訂年月日	平成２９年９月１日		

ボックスカルバート（支管）

円形管

ボックスカルバート（防護コンクリート）

※注意事項
・接着剤を確実に塗布し直管へ密着させ、キャップ部から漏水しないようにすること。
・直管部は、既設支管又は既設防護Ｃｏからキャップを含め100mm以内とすること。

図　名	取付管撤去参考図		
分　類		図 番	220
改訂年月日	令和　3　年　4 月 1 日		